

(別紙様式4) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告(こども園)**

こども園名 [京丹後市立大宮こども園]

こども園経営方針 (中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点 (短期経営目標)	
<p>○人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心も体も元気な子ども ・のびのびと遊び、感性豊かな子どもの育成 ・人の話を聞き、感性豊かな子どもの育成 ・人の話を聞き、自分の思いや考えを言える子どもの育成 <p>○テーマ 『わくわく げんき えがおのわ』 ～伸び伸びと遊び、ともに育つ子どもをめざして～</p>		<p>○大宮学園の教育目標や方針を公開保育や実践報告などを通して研修することで共通理解をすることができた。</p> <p>△自然に恵まれた地域ではあるが、交通量の多さからの安全確保が難しいため園外に出る機会が少なかった。園庭や園内の環境を整え、自然体験や身体を使った遊び、地域の人との交流など充実を図っていききたい。</p> <p>○年間を通して毎朝サーキットを行うことで生活リズムが整い、朝の持ち物の始末が習慣付き意欲的に取り組むことができるようになった。</p> <p>○医療的ケアの必要な園児や国籍の異なる園児、障害のある園児など様々な背景をもつ園児がいる中、生活や遊び、異年齢交流などを通してそれぞれの違いを受け入れ、一人一人の良さを生かすことで、思いやりの気持ちや認め合う豊かな心が育ってきた。</p> <p>△様々な体験から自分の思いや考えを伝えることの嬉しさを感じる園児が増えてきたが、うまく伝えられず友達や保育教諭に補ってもらい話すことを経験している園児もいる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動、運動活動の充実による基礎体力の向上と望ましい基本的な生活習慣サイクルを構築する。 ・友達との関わりを通して多様性を認め、自分らしさを発揮しながら育ちあう教育保育を進める。 ・園の環境の充実を図り、主体的に環境に関わりながら友達と一緒に様々な遊びや活動する場を保証し、豊かな感性やことばの力を養う。 ・地域の人や文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価	
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> ・大宮学園の教育目標をもとに基本方針や取組内容を理解しながら教育保育を進める。 ・保園小の連携を密にし、一貫性、連続性のある指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園コーディネーターを招いて園内研修を行い、園の教育 保育と学園の教育目標の一貫性を確認し、全職員で共通理解して実践していく。 ・アプローチプログラムを基に、教育保育内容を検証しながら架け橋期の教育保育活動を進める。 	<p>○学園の方針を園内で共通理解するために学園コーディネーターを招いて研修会を開き、園と学園の教育目標の一貫性を確認し共通理解することができた。</p> <p>△学園の担任会や連絡会などを通し連携を密にしてきたが、体験入学において園と小学校のねらいの違いが浮き彫りになった。園と小学校間で交流活動のねらいや内容をしっかり共有するとともに、架け橋プログラム作成の必要性も感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の便りで様子がよくわかる。 ・運動会や発表会の行事などに小学校長が来賓で来られていて連携が取れていることを感じた。 ・挨拶は人をつなぐ言葉なので、学園の取組として続けてほしい。 	
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい園生活を過ごせるようにする。 ・主体的で伸び伸びと遊ぶ力を育て、遊びを学びにつなげる。 ・人とつながることの喜びを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に努め、一人一人の園児が個性を發揮できる教育を推進する。 ・築山の環境を生かし、園児の学びを豊かにする園庭の環境づくりを目指す。 ・大宮学園の取組「ハイタッチモーニング」を定着させ、心を育成するための教育活動の充実を図る。 	<p>○興味や関心を引き出す環境をつくることで、好きな遊びを自ら選び楽しみ、個性や想像力を発揮しながら楽しく学びを得ることができた。</p> <p>○海と星の見える丘公園の野木園長の協力を得て、築山環境整備を行うことで、人とのつながりを喜び、自然環境への興味、関心や、体を使った遊びの楽しさも感じるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園周辺の交通量が多いため、園外保育には十分気をつけ、地域の駐在さんをお願いするなどして安全面の強化に努めてほしい。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・直接体験からの感動を経験し、ことばの力の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢や地域との交流を行い、生活や遊び、様々な体験を通して思いやりの気持ちや人と関わる楽しさを感じられるように進めていく。 ・話したい、伝えたい、聞きたいと思えるような様々な遊びや体験ができる環境づくりをしたり、振り返りの時間や場をもったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大宮学園の「ハイタッチモーニング」を通して、人とつながる喜びを感じたり、異年齢の友達と一緒に菜園活動や琴の演奏、お茶会など交流活動を実施したりする中で、他者と関わる大切さや楽しさを実感し、思いやりや社会とのつながり、地域への愛着も深まる様子が見られた。 ○安心できる環境の中で、直接体験や感動体験を通して、自分の思いや考えを伝えようとしていたり、振り返りの時間をもったりすることで、伝わることの喜びを感じ、ことば力の育成に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・築山の環境は子ども達が遊びたいと思えるようになってとても良いと思う。保護者も巻き込みながら園庭の環境づくりができればよいのではないかと。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して子育てができるよう支援する。 ・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「共育て」を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。 ・月2回定期的に園庭開放を行い、園児の姿を見守りながら保護者同士が交流したり、保護者が気軽に職員と話したりできるようテーブルやパラソル、椅子などを設置して場を整える。 ・エントランスにテーブルや椅子を設置し、保護者向けの絵本や育児書を置くなどし、保護者が集ったり安らいだりできる環境を整える。 ・園児の具体的な姿をできるだけリアルに伝え続けられるようホームページやドキュメンテーションなどを活用して配信し、信頼される園づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週一回の保育ドキュメンテーションを配信したり、全職員で園児の姿を共有して担任以外の職員からも保護者に声をかけることができるようにしたりし、園全体で教育・保育を行っていることを保護者に感じてもらうように努めた。 ○送迎や園庭開放時に積極的に保護者と園の様子について話すことで、保護者は安心感をもち、園の方針や活動に対する理解が深まった。また、保護者同士が自然に交流できる環境を作ることで、保護者同士のつながりが強化され、園全体のコミュニティ感が向上した。 △延長保育利用のため直接、園での様子を伝えるににくい保護者もあった。個人懇談や保育支援システムをうまく活用しながら、より丁寧な連携を取っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多国籍の方や様々な事情を抱えている家庭が多いので、園が居心地の良い場所となり、相談窓口となるよう、丁寧で親切な対応をして信頼関係を築いてほしい。 ・保育支援システムで子どもの様子がよくわかると保護者も安心できるととても良いツールだと思う。
研修 (教員の資質向上・人権教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図り、保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画に基づき事例研究や公開保育などを行い、保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 ・大宮こども園の教育保育について全職員で園内研修を実施し、教育保育のあり方について共通理解する。 ・園内研修の内容を工夫し、研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワークを中心に事例研究や研修報告などを工夫しながら行ったことで、全職員が思いや考えが出しやすく、資質能力の向上につながった。また、月毎の指導の反省では、成果と課題を他学年と共有したり、意見を聞いたりすることで、異なる視点や新たなアイデアを得ることができ、園全体の教育・保育の質の向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の確保が難しいと思うが、よりよい保育・教育をするためにも研修をして、質の向上に努めてほしい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○大宮学園の新たな教育目標をもとに基本方針や取組内容を理解しながら教育保育を進める。 ○自然環境への興味関心をより深め、遊びや活動の中で地域や専門分野の方々とのつながりながらSDGsの意識を高める。 ○こども園と小学校の連携を強化し、特に、「架け橋期」における支援を充実させる。 			